

こどもの事故防止が最重点

春の全国交通安全運動始まる

四月六から十五日までの十日間、全国いっせいに「春の全国交通安全運動」が実施されます。この運動は、すべての人々に交通安全思想の普及徹底を図り、正しい交通ルールの実践を習慣交通事故絶滅を図ることを目的として毎年行われているものです。

今回は「手を上げて正しく横断新学年」をスローガンに、歩行者、とくにこども（幼児及び小学校児童）の事故防止を最重点目標に運動を進めていきます。



大切なおかあさんの役目

こどもも親も希望に胸ふくらむ新学年です。しかし、それとはうらはらに悲しい交通事故が心配な時期でもあります。かわいっこどもたちを交通事故から守るためには、日常の家庭や学校における教育が最も大切です。とくに、こどもたちに交通事故から身を守るすべを教えるのは、おかあさんの大切な役目です。

(1) こどもの死亡事故の半分以上は四月と五月の新入学（園）期に集中しています。これは、新しいともだちができ行動範囲が変わるためです。今からこどもの遊びの範囲を知り、危険な場所の通行方法を具体的に教えておきましょう。

(2) 統計的に、情緒が不安定なきほど事故にあいやすいことが

はつきりしています。家を出かけにおかあさんにしかられたり忘れ物をしたり、遅刻しそうなときはとくに危険です。

(3) おかあさんが、交通安全についての知識、能力を身につけて、模範となる行動をすることが必要です。そして、おかあさんのお手本によって安全な行動を身につけられるよう指導してあげてください。

危険なこどもの衝動的な行動

交通安全の指導には、実際の体験を通して教えることが大切です。こどもといっしょに行動して、正しい交通安全ルールを買物の行き帰りなどに繰り返し教えて習慣化することが大切です。

こどもは自己中心的で、周囲の事情など考えないで思うままの行動をします。ですから、いきなり道路へ飛び出したりして思わぬ危険にありることがあります。

こどもの歩行中の事故のうちで登校、登園途中での事故は比較的小さく、大部分の事故は家庭やその近くで起きています。

また、その原因をみると、飛び出し事故が最も多く、自動車の直前、直後の横断なども含めて、事故の九〇割余りが、こどもの衝動的な行動に起因しています。

これだけはこどもに教えましょう

▽横断する前にはいったん停止
横断する前には、必ずいったん停止して左右を見、車が来ないことを確かめてから渡るように習慣づけましょう。

▽正しい横断をすること

横断歩道、歩道橋などが近くにあるときは、必ずこれを利用することです。横断するときは手を上げて運転者に合図するよう実行してください。また、車のすぐ前やすぐ後ろを横断したりすることは反対側から車が来ることであっても危険です。

▽信号を守ること

道路を渡るときは、前方の青信号に従って渡るよう習慣つけてください。

▽道路では遊ばないこと

最近のように、裏通りを通る車が多くなると、道路で遊ぶことは大変危険です。こどもは公園や安全な空地で遊ばせるようにさせましょう。

以上のことは実地に教えてやってください。交通安全の指導は話だけではいけません。また、幼児が事故にあうのは、おかあさんたちの目が届かなかつたり、おかあさんがそばにいなから手をつないで歩いたり、買物や立ち話に夢中になって注意がそれたときに多いようです。

こどもから目を離さないよう、またひとり歩きの幼児を見かけたときは、温かく守ってあげてください。